

滝ノ沢山遺跡発掘調査現地説明会資料

調査要項	
遺 跡 名	滝ノ沢山（たきのさわやま）遺跡
遺 跡 番 号	平成 14 年度登録
所 在 地	山形県最上郡真室川町大字大沢字滝ノ沢山
調査委託者	最上総合支庁（建設部道路計画課）
調 査 原 因	一般国道 344 号特殊改良一種事業
調 査 面 積	1,500 ㎡
現 地 調 査	平成 20 年 5 月 12 日～平成 20 年 7 月 30 日
遺 跡 種 別	狩猟場跡
時 代	縄文時代
遺 構	陥穴・ピット（小さい穴）
遺 物	縄文土器・石器・磨石
調査担当者	調 査 課 長 長 橋 至
	課 長 補 佐 伊 藤 邦 弘
	調査研究員 福岡 和彦（調査主任）
	調 査 員 伊 藤 純 子
調 査 協 力	山形県教育庁文化遺産課、最上教育事務所、 真室川町教育委員会



調査前調査区全景（北から）

1 調査の概要

滝ノ沢山遺跡は、一般国道344号の改良工事に伴い、山形県教育委員会が試掘調査を行った結果、平成14年度に登録された遺跡です。そのため、道路改良工事に着手するに先立ち、事業区内の1,500㎡について記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。

財団法人山形県埋蔵文化財センターが山形県からの委託を受け、発掘調査を行なっています。

発掘調査は5月12日から開始し、最初に重機を使用して表土除去を行い、続いて人力での遺構検出作業、掘り下げ作業を進めました。その後、写真撮影、図面作成などの記録作業を行っています。

2 立地と環境

滝ノ沢山遺跡は、J R 真室川駅から北西へ2 km、真室川中学校向かい側の滝ノ沢山に位置しています。遺跡

2008 年 7 月 15 日（火）

財団法人山形県埋蔵文化財センター



遺跡位置図（1:25,000）



調査風景

は鮭川と真室川にはさまれた舌状に伸びる高位段丘上に立地し、標高は134mほどで調査前は雑木林でした。

真室川町内では、現在約70の遺跡が確認されていますが、このうち縄文時代の遺跡は50以上を数え、その多くが川沿いの河岸段丘上に立地しています。

縄文時代前期では、東町遺跡や安久土遺跡、縄文中期の遺跡は最も多いとされており、片杉野遺跡・砂子沢遺跡で石組みの炉跡が見つかっています。更に、後・晩期にわたる複合遺跡として釜淵遺跡や中台遺跡も良く知られています。

3 遺構と遺物

検出された遺構には、陥穴（おとしあな）をはじめ、ピット、火を使った跡と思われる遺構などがあります。

陥穴は、調査区の中央部に4基検出され、大きさは、約3.5m×0.4mほどで、深さは1 m前後となっており、

4基とも、沢に向かって下っていく方向に対して垂直に掘られていました。

さらに、調査区の中央部から北側に集中してピットが検出されており、遺跡全体でおよそ150基ほどになります。

また、火を使ったと思われる遺構が、調査区の中央部と北側で2基検出されました。炉の跡なのか、たき火の跡なのかはまだはっきりしませんが、赤茶色に焼けた焼土が残っていました。

遺物では、縄文時代の土器と石器が出土しています。土器のほとんどは破片です。これらの破片を見ると、口縁部に付いたひも状の文様などが付けられていることから、縄文時代前期～中期（約5,500年～4,000年前）にかけての深鉢形土器の一部と見られます。

石器は、石^{いし}甕^{べら}、搔^{そう}器^き、石^{せき}錐^{すい}、磨^お石^{とし}、くぼみ石などが出土しています。石器を作った残りの石核（コア）も2点出土しました。また、石器を作るときにできるかけら（剥片^{はくぺん}）も多数見つかりました。

4 まとめ

滝ノ沢山遺跡は、出土した遺構や遺物から、縄文時代の狩猟の場であったと考えるのが妥当と思われます。

沢に向かって平行した4基の陥穴^{おとしあな}が掘られていたことから、高台のほうから獲物を追い込んで落とした、あるいは、沢に水を飲みにくた動物が自然に落ちるように使ったことが考えられます。

また、火を使った跡と思われる遺構が2ヶ所ありますが、竪穴住居跡などは検出されなかったため、生活した場合は、もう少し高台のほうにあったものと思われます。小さな穴（ピット）が約150基見つかっているため、建物などを構成するものがないかどうかについては、これから更に検証していく必要があります。

調査で得られた成果は、今後整理作業の中で検討を加え、この地域の歴史を語る報告書として刊行される予定です。



調査区遺構検出状況（北から）



遺物を含む土坑の掘り下げ



出土遺物（縄文土器）



出土遺物（石核・磨石・くぼみ石）



出土遺物（石べら・搔器・石錐）

滝ノ沢山遺跡遺構配置図

(1 : 300)

